

会長の挨拶 32 例会出席—その 7—

ロータリーの例会出席と関連して二つの重要な問題がある。一つはロータリー諸々の集会の中で例会のもつ意味の重要性が従来必ずしも正確には理解されていないということである。端的に言って例会はロータリーのあらゆる会合の中心なのである。親睦もプログラミングも奉仕活動も他クラブ情報もすべて例会に集中されるのである。例会の重要性はあたかも日曜日の教会の礼拝のごときものとなる。

しかしながら例会は、たとえて言えば檜舞台のごときものである。一つの檜舞台を立派に仕上げるためには、多くの人の準備作業が必要である。従って、一つの公式の会合の間にも、非公式な会合が重ねられなければならない。クラブ・フォーラムでもよく、協議会でもよく、また各種委員会でもよく、またファヤサイド・ミーティングと呼ばれる極めて非公式な会合であってもよい。これに積極的に参加するロータリアンや、こういった非公式な会合を多く開いているクラブは、週一回の正式な例会が充実せずにはいない。人の心を他の者との接触を通じて、普遍的なものとして行こうとするロータリーにあっては、単に例会出席の強制—これは最低限の義務である—の前提として、多くの非公式な会合への積極的参加が考えられていることを忘れてはならないのである。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)